

令和3年度学校評価報告書

北海道枝幸高等学校長 深 澤 健

1 今年度の重点目標

高い志を持ち、自己実現に向かってチャレンジする人物の育成
(1) 自己を理解して、自己の伸張と進路実現を目指し、自ら学ぶ態度の育成
(2) 互いの違いを理解し、思いやりを持ち、共に成長するこころの育成
(3) 小中学校や地域との連携を図り、地域を愛し、貢献する態度の育成
(4) 生命を尊重する態度や健康・安全意識を高め、逞しい心身の育成
(5) 働き方改革に向け業務の効率化に努め、教育の質を向上

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
めざす生徒像 めざす学校像	コロナウイルス感染予防のため昨年度に引き続き、制約の多い年だった。各部活動大会も活動の縮小が余儀なくされ、例年どおりとはいかなかった。タブレットが通常授業にも運用され、さらに「DX 事業」推進校として、先進的な取り組みが継続できた。ホームページや新聞掲載などで広く発信することにより、多くの町民に浸透してきていると感じるが、保護者や地域の方々が学校に来る機会が少なく、アピールの方法を模索する必要がある。	工夫をしながら教育活動を今後も勸化得ていかなければならないと思うが、昨年評議員会ででた三者面談の ICT 化など即実施できているのは素晴らしい。 枝幸の生徒はどうしても競争力が不足しがちのため、ICT 機器を活用することにより機会を与えて欲しい。
改善方策	(1) 学習面、生活面で多様な生徒が増えており生徒のサポートの仕方について研鑽を深めていく。「生徒一人ひとりに寄り添い」「生徒のために何ができるか」を念頭に教育相談、支援に力を入れる。 (2) 生徒に望ましい将来像を持たせながら、地域から信頼される将来の社会人・職業人としての資質・能力を育成するために、より地域の実態や保護者の要望を踏まえたビジョンを共有し、計画的かつ継続的な教育活動を推進する。	
家庭・地域との連携	(1) ホームページのアクセス数は1日平均約480件であり昨年度より平均70件増加している。引き続き学校通信、各紙報道を併せて活用し、適切な広報に継続して努める。 (2) コロナの関係もあり生徒保護者向け一斉メールが有効に機能した。	保護者、地域の人が学校に気軽に来られる仕組みを是非工夫して欲しい。
改善方策	(1) ホームページのタイムリーな更新。生徒の状況や保護者説明会での報告などを印刷物の活用と併せて行い、効果的な情報発信を継続して行う。 (2) 地域の教育ニーズを把握しながら、社会に開かれた教育課程の実現に向け、保護者と地域が枝幸高校応援団として生徒を支援して頂ける力になって頂けるよう、信頼に値する教育活動と引き続きいの協力を依頼する。 (3) 行事後の懇親会、生徒の様子との連絡などの日常的な情報交換の機会を増やし、保護者と学校との連携の必要性を認識してもらうよう努める。また、教職員も地域の一員であるという意識をもち、催事への参加を行っていきたい。	

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	(1) 保護者、教員の評価は概ね良好と考える。特に保護者において「家庭での学習習慣の確立」「意欲を引き出し、能力を身につけさせる学習指導」についての評価が上がったのは励みになる。 (2) 生徒アンケートの「家庭学習指導」、「興味関心に合わせた授業の工夫」について否定的回答が多いことを鑑み、進路目標の醸成と具体的な取組（研究授業計画など）見直しと改善の必要がある。一方で、タブレットの活用により、前年度より向上しており、生徒個々における達成度向上と、学校側の生徒状況や理解度の把握・管理を的確かつ平易にできるよう取り組んでいく。	授業改善のために、教員が授業に生徒と一緒に授業に参加することで、生徒目線の研修もできるのではないかな。 ICT がすべての学習活動に自然に溶け込んでいるのは素晴らしいと思う。 管理の面（バッテリーの消費やアップルペンシルの破損）の課題は工夫が必要である。
改善方策	(1) 生徒の学習状況（内容、時間、方法等）や学力、進路希望を適切に把握し、具体的な学習方法と課題を提示しながら、校内に常駐している「公営塾」との連携を深める。個に応じた丁寧な学習指導に努める。タブレット端末を有効活用することで、課題ギャップの補てんを実践する。 (2) 教員による先進かつ効果的な取組の共有機会（研究授業）や少人数グループでの相互参観と合評の実施、校外への研修会参加と成果の共有等、授業の質的向上は継続して実践する。	
生徒指導	(1) 「生徒の部活動や行事、ボランティアへの主体的取組」については、コロナの影響で予定していた行事を行うことができず、教員評価は低く、生徒自身の主体性とそれを引き出す教員のしかけを来年度は積極的にすすめる。 (2) 校則の改定（頭髪、アルバイト、制服規程など）を行い、時代に合った規則の制定に今後も務めていく。	卒業後のミスマッチを防ぐためにもアルバイトの効用はあると思う。部活動の活性化との両立はして欲しい。
改善方策	(1) 生徒が課題意識を持って取り組める活動の充実を図るため、他者を思いやれる協調性のある集団と、人間関係づくりへのメッセージ等、生徒主体の活動場面を設定・計画していく。ボランティア活動への参加も促していく。 (2) 人間関係に係る生徒の変化を見逃さないよう、校内での教育相談機能を強化し、保健室との連携や役割分担、保護者との情報共有を密にして、問題行動の未然防止、心のケアの充実を図ることで、強い信頼性を構築できるよう意識していく。 (3) 生徒会を主軸として、生徒が主体的にルールを守る目線合わせの機会を年間の節目ごとに設定し、自己指導力の高まりを実感できる場面を作っていく。	
進路指導	(1) 進路講習や面接指導について、就職、進学ともに昨年度から引き続いて一定の評価を得られていると考えられる。特に教員の評価では「学年段階に応じた進路指導」、「就職希望者に対する指導」について高い評価である。分掌を始めとして、学年そして全体としての目線合わせと意識付けが奏功した結果と見ることができる。 (2) 公営塾との連携についてうまくいっている。今後もより一層効果的な協働体制やシステムづくりに努める。	「公営塾」が都市部の受検生の雰囲気等について ICT を利用して工夫をしているのはとても良いことであると思う。今まで感じることのできないことを学んでいると感じる。

改善方策	(1) 教員と生徒、保護者さらに「公営塾」が、希望進路を叶えるために必要な力を共有し、今年度整備してきた必要な実力養成を見据えた指導（講習、面接、小論文等）の計画・実施を改善していく。生徒個々の進捗を全体共有し、どの学年の誰がどこを希望しているかを把握し、時機を見たサポートの場面を確実なものとする。 (2) 学年による生徒の発達段階に応じて、進路選択にあたっての興味と可能性を把握し、あらゆる視野から自己実現を図れる進路指導を行う。そのためには、日常の学習活動を軸に、進路学習や面談を通じたガイダンス機能の充実を図っていく。
------	---